



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月6日

上場取引所 東

上場会社名 日本化成株式会社

コード番号 4007 URL <http://www.nkchemical.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 中村 英輔

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 関 信哉

TEL 03-5540-5861

四半期報告書提出予定日 平成25年2月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	24,472	6.3	183	△65.5	340	△47.3	269	17.0
24年3月期第3四半期	23,022	△20.9	530	△78.7	645	△73.9	230	△82.8

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 267百万円 (25.9%) 24年3月期第3四半期 212百万円 (△83.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	2.56	—
24年3月期第3四半期	2.19	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	35,888	11,572	32.2
24年3月期	34,560	11,515	33.3

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 11,572百万円 24年3月期 11,515百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	31,500	△4.3	750	32.7	1,000	3.8	420	12.9	4.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	105,115,800 株	24年3月期	105,115,800 株
25年3月期3Q	29,867 株	24年3月期	28,836 株
25年3月期3Q	105,086,621 株	24年3月期3Q	105,088,212 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(5) セグメント情報等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、復興関連需要等の支えもあり、前半は緩やかな回復過程を辿りましたが、その後世界経済が減速傾向を強める中で、夏場以降、景気の後退感が鮮明となりました。

このような状況の下、当社グループの当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、機能化学品事業が需要低迷等により引き続き厳しい状況で推移し、比較的堅調であった無機化学品事業の一部においても第3四半期以降需要の減退が見られましたが、アンモニア系製品が秋以降堅調に推移し、ホルマリン、木材加工用接着剤も引き続き持ち直し傾向を辿ったこと等から、前年同期に比べ増収となりました。

一方、損益については、上記のとおり売上高が対前年同期比増収となる中で、震災による前期操業大幅低下に伴う繰越在庫の払出負担等一時的な要因、更には震災に伴い前期特別損失に計上した工場固定費の本来売上原価への反映等があったことにより、前年同期との比較では、営業利益及び経常利益は減益となりましたが、四半期純利益については補助金収入等により増益となりました。

具体的には、当第3四半期連結累計期間の売上高は24,472百万円（前年同期比6.3%増）となりました。一方、損益につきましては、上記のとおり震災による一時的な要因があったことから、営業利益は183百万円（前年同期比65.5%減）、経常利益は340百万円（前年同期比47.3%減）となりました。

こうした中で、四半期純利益については、黒崎工場硝安製造設備等撤去費用359百万円を特別損失として計上する一方、福島県中小企業等グループ施設等復旧整備補助金566百万円を特別利益として計上したこと等から269百万円（前年同期比17.0%増）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

なお、当第3四半期連結会計期間より、平成24年11月1日付当社組織変更に伴い、従来「機能化学品・化成品事業」に含めていた電子工業用高純度薬品は、「無機化学品事業」に帰属させることといたしました。以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えております。

(無機化学品事業)

硝酸をはじめとするアンモニア系製品は、主要顧客の需要が順調に回復したことから、販売数量、売上高とも増加しました。合成石英粉は、第3四半期以降、半導体関連分野の需要減少の影響により、販売数量、売上高とも減少しました。ディーゼル車脱硝用高品位尿素水（アドブルー）は、尿素SCRシステム搭載車の増加、拡販努力等により販売数量、売上高とも増加しました。電子工業用高純度薬品は、依然として厳しい状況が継続し、販売数量、売上高とも震災の影響で大きく落ち込んだ前年同期並みとなりました。

その結果、全体の売上高は、12,349百万円（前年同期比14.7%増）となりました。

(機能化学品・化成品事業)

タイヤ（ゴム、プラスチック架橋助剤）は、夏場以降の需要急減等により、販売数量、売上高とも減少しました。脂肪酸アミドは、夏場以降需要が低迷したものの、震災の影響で大きく落ち込んだ前年同期との比較では、販売数量、売上高とも増加しました。

メタノールは、需要の減少等により、販売数量、売上高とも減少しました。ホルマリンは、主要顧客の需要が引き続き堅調に推移したこと等により、木材加工用接着剤は主要顧客の震災復旧の進展等により、回復基調が継続したことから、大きく落ち込んだ前年同期との比較では、販売数量、売上高とも増加しました。

その結果、全体の売上高は8,234百万円（前年同期比2.0%増）となりました。

(エンジニアリング事業)

震災復旧需要の一巡等もあり、比較的好調であった前年同期との比較では、売上高は減少し2,871百万円（前年同期比5.2%減）となりました。

(その他)

貨物運送・荷役事業は荷役事業の減少により、有機溶剤等の蒸留・精製業は処理量の減少により、売上高が減少しました。その結果、全体の売上高は912百万円（前年同期比12.6%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末に比し1,328百万円増加し、35,888百万円となりました。これは、主に売上債権及びたな卸資産等の増加が有形固定資産等の減少を上回ったことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比し1,271百万円増加し、24,316百万円となりました。これは、主に仕入債務及び有利子負債等の増加が災害損失引当金及び賞与引当金等の減少を上回ったことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比し57百万円増加し、11,572百万円となりました。これは、主に四半期純利益による増加が支払配当金等による減少を上回ったことによるものであります。

この結果、自己資本比率は32.2%（前連結会計年度末は33.3%）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の日本経済については、海外経済が減速した状態から次第に脱していく中で、緊急経済対策による押し上げ効果等も加わり緩やかに回復するものと想定されておりますが、未だ不安定感が払拭し切れない欧州経済、更には今後の米国及び中国の景気動向等といった不確実性を抱えております。

このような状況を踏まえ、平成25年3月期の通期連結業績予想につきましては、現時点では、平成24年10月25日に発表した内容から変更しておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,519	2,401
受取手形及び売掛金	8,780	9,605
商品及び製品	2,994	3,213
仕掛品	381	1,071
原材料及び貯蔵品	1,385	1,328
その他	2,016	1,570
貸倒引当金	△1	△0
流動資産合計	17,074	19,188
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,196	2,988
機械装置及び運搬具(純額)	2,750	2,204
土地	6,967	6,951
建設仮勘定	368	336
その他(純額)	151	150
有形固定資産合計	13,432	12,629
無形固定資産		
その他	50	43
無形固定資産合計	50	43
投資その他の資産		
その他	4,030	4,053
貸倒引当金	△26	△25
投資その他の資産合計	4,004	4,028
固定資産合計	17,486	16,700
資産合計	34,560	35,888

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,690	5,784
短期借入金	10,637	11,387
未払法人税等	178	21
賞与引当金	339	90
災害損失引当金	1,033	1,118
その他	1,863	2,078
流動負債合計	18,740	20,478
固定負債		
長期借入金	853	698
退職給付引当金	2,928	2,957
役員退職慰労引当金	96	68
災害損失引当金	312	—
その他	116	115
固定負債合計	4,305	3,838
負債合計	23,045	24,316
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,593	6,593
利益剰余金	4,913	4,972
自己株式	△6	△6
株主資本合計	11,500	11,559
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15	13
その他の包括利益累計額合計	15	13
純資産合計	11,515	11,572
負債純資産合計	34,560	35,888

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	23,022	24,472
売上原価	18,542	20,494
売上総利益	4,480	3,978
販売費及び一般管理費	3,950	3,795
営業利益	530	183
営業外収益		
受取利息	2	0
受取配当金	92	112
持分法による投資利益	—	46
受取賃貸料	46	48
その他	144	85
営業外収益合計	284	291
営業外費用		
支払利息	89	85
持分法による投資損失	56	—
その他	24	49
営業外費用合計	169	134
経常利益	645	340
特別利益		
補助金収入	—	566
受取補償金	423	79
災害による損失戻入額	105	—
固定資産売却益	—	74
特別利益合計	528	719
特別損失		
災害による損失	519	—
固定資産処分損	—	359
減損損失	—	314
投資有価証券評価損	24	—
特別損失合計	543	673
税金等調整前四半期純利益	630	386
法人税、住民税及び事業税	△4	26
法人税等調整額	422	91
法人税等合計	418	117
少数株主損益調整前四半期純利益	212	269
少数株主損失(△)	△18	—
四半期純利益	230	269

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	212	269
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	△2
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	0
その他の包括利益合計	0	△2
四半期包括利益	212	267
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	230	267
少数株主に係る四半期包括利益	△18	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				その他 (百万円) (注)1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円) (注)3
	無機化学品 事業 (百万円)	機能化学 品・化成品 事業 (百万円)	エンジニア リング事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	10,764	8,069	3,030	21,863	1,044	22,907	115	23,022
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	-	6	269	275	215	490	△490	-
計	10,764	8,075	3,299	22,138	1,259	23,397	△375	23,022
セグメント利益 又は損失(△)	△55	220	351	516	△99	417	113	530

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、貨物運送・荷役事業、サービス関連業(熱供給業、有機溶剤等の蒸留・精製業、産業廃棄物処理関連業等)を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額

	金額(百万円)
電気及び蒸気の販売による損失(△)	△23
その他の調整額※1	247
全社費用※2	△111
合計	113

※1. その他の調整額は、主に各報告セグメントに帰属しない全社資産に係るもの及び各報告セグメントに配分していない原価差額であります。

※2. 全社費用は、各報告セグメントに配賦した一般管理費の予定配賦額と実績発生額との差額及び報告セグメントに帰属しない一般管理費、研究開発費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				その他 (百万円) (注)1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円) (注)3
	無機化学品 事業 (百万円)	機能化学 品・化成品 事業 (百万円)	エンジニア リング事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	12,349	8,234	2,871	23,454	912	24,366	106	24,472
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	-	36	119	155	228	383	△383	-
計	12,349	8,270	2,990	23,609	1,140	24,749	△277	24,472
セグメント利益 又は損失(△)	367	△5	159	521	1	522	△339	183

(注)1. 「その他」の区分は、貨物運送・荷役事業、有機溶剤等の蒸留・精製業等であります。

当第3四半期連結累計期間において、「その他」に含まれている「貨物運送・荷役事業」の外部顧客への売上高は854百万円、セグメント利益は54百万円であり、「有機溶剤等の蒸留・精製業」の外部顧客への売上高は58百万円、セグメント損失は61百万円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額

	金額(百万円)
電気及び蒸気の販売による損失(△)	△20
その他の調整額※1	△218
全社費用※2	△101
合計	△339

※1. その他の調整額は、主に各報告セグメントに帰属しない全社資産に係るもの及び各報告セグメントに配分していない原価差額であります。

※2. 全社費用は、各報告セグメントに配賦した一般管理費の予定配賦額と実績発生額との差額及び報告セグメントに帰属しない一般管理費、研究開発費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「無機化学品事業」において減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては314百万円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結会計期間より、平成24年11月1日の会社組織の変更に伴い、従来「機能化学品・化成品事業」に含めていた電子工業用高純度薬品は、「無機化学品事業」に帰属させることといたしました。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、会社組織変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

平成25年3月期 第3四半期決算概要

日本化成株式会社

[単位:百万円]

1. 連結業績

	当第3四半期 連結累計期間 (H24. 4. 1- H24. 12. 31)	前年同四半期 連結累計期間 (H23. 4. 1- H23. 12. 31)	増減	
			金額	率
売上高	24,472	23,022	1,450	6.3%
営業利益	183	530	△ 347	-65.5%
金融収支	27	5	22	※1
その他営業外	84	166	△ 82	※2
持分法損益	46	△ 56	102	※3
経常利益	340	645	△ 305	-47.3%
特別損益	46	△ 15	61	※4
税引前利益	386	630	△ 244	-38.7%
四半期純利益	269	230	39	17.0%
1株当り四半期純利益	2円56銭	2円19銭		

※1金融収支の内訳

	H24/12	H23/12	差
受取配当金	112	92	+20

※2その他営業外差異主な内訳

	H24/12	H23/12	差
雇用調整助成金	-	45	△45
日化新薬社一部設備売却	-	28	△28

※3小名浜海陸運送

	H24/12	H23/12	差
	46	△56	+102

※4特別損益主な内訳

	当第3四半期	前年同四半期
補助金収入(注1)	566	-
受取補償金	79	423
災害による損失(注2)	-	△ 519
固定資産処分損(注3)	△ 359	-
減損損失(注4)	△ 314	-
その他	74	81
計	46	△ 15

(注1) 福島県中小企業等「ゴルフ施設等復旧整備補助金

(注2) 震災による操業停止期間中の固定費等

(注3) 黒崎工場硝安・亜硝酸曹達・パウリンク法濃硝酸製造設備撤去費

(注4) 小名浜工場硝安・混酸製造設備

①セグメント別売上高(連結)

		当第3四半期 連結累計期間 (H24. 4. 1- H24. 12. 31)	前年同四半期 連結累計期間 (H23. 4. 1- H23. 12. 31)	増減
報告セグメント	無機化学品	12,349	10,764	1,585
	機能化学品・化成品	8,234	8,069	165
	エンジニアリング	2,871	3,030	△ 159
その他	912	1,044	△ 132	
調整額	106	115	△ 9	
計	24,472	23,022	1,450	

無機材料は半導体関連分野の需要減少の影響により販売数量、売上高ともに減少した一方、アンモニア系製品は主要顧客の需要の回復により販売数量、売上高とも増加したため対前年同期比増収

ホルマリン・木材加工用接着剤は主要顧客の需要回復あるいは震災復旧の進展等により販売数量、売上高とも増加した一方、タケ(ゴム・プラスチック架橋助剤)は夏場以降需要が急減し販売数量、売上高とも減少したため、対前年同期比微増

震災復旧需要の一巡等もあり、比較的好調であった前年同期との比較では減収

貨物運送・荷役事業は荷役事業の減少により、有機溶剤等の蒸留・精製業は処理量減少等により、対前年同期比減収

上記セグメントに属さない電気・蒸気等のコアレポート部門の売上高を調整額として表示

②セグメント別営業利益(連結)

		当第3四半期 連結累計期間 (H24. 4. 1- H24. 12. 31)	前年同四半期 連結累計期間 (H23. 4. 1- H23. 12. 31)	増減
報告セグメント	無機化学品	367	△ 55	422
	機能化学品・化成品	△ 5	220	△ 225
	エンジニアリング	159	351	△ 192
その他	1	△ 99	100	
調整額	△ 339	113	△ 452	
計	183	530	△ 347	

震災による損害に伴い前期特別損失に計上した工場固定費の売上原価への反映及び無機材料の販売数量減があったものの、アンモニア系製品の販売数量増により、対前年同期比増益

ホルマリン・木材加工用接着剤等は販売数量増となるも、タケ(ゴム・プラスチック架橋助剤)の販売数量が減少し、また震災による損害に伴い前期特別損失に計上した工場固定費の売上原価への反映により、対前年同期比減益

震災復旧需要の一巡等もあり、比較的好調であった前年同期との比較では減益

有機溶剤等の蒸留・精製業の売上高が減少するも、貨物運送・荷役事業のコスト削減、産業廃棄物処理関連業からの撤退等により、対前年同期比増益

原価差額及び上記セグメントに属さない電気・蒸気等のコアレポート部門の損益を調整額として表示(含みらいプロジェクト開発費用 H24第3Q △118 H23第3Q △117)

※上記の報告セグメントは平成24年11月1日付の組織変更により、従来「機能化学品・化成品事業」であった電子工業用高純度薬品を「無機化学品事業」に帰属し表示しております。

2. 連結比較貸借対照表

	当第3四半期 連結会計期間末 (H24. 12. 31)	前連結会計 年度末 (H24. 3. 31)	増減		当第3四半期 連結会計期間末 (H24. 12. 31)	前連結会計 年度末 (H24. 3. 31)	増減
たな卸資産	5,612	4,760	852	営業債務他 ※2	12,231	11,555	676
営業債権他 ※1	11,175	10,795	380	株主資本	11,559	11,500	59
固定資産(有形・無形)	12,672	13,482	△ 810	その他の包括利益累計額	13	15	△ 2
投融資等	4,028	4,004	24				
資産合計	35,888	34,560	1,328	負債・純資産合計	35,888	34,560	1,328

(注) 自己資本=純資産-少数株主持分

D/Eレシオ=有利子負債/自己資本

自己資本 11,572 11,515 57

自己資本比率 32.2% 33.3% △1.1%

有利子負債 12,085 11,490 595

D/Eレシオ 1.04 1.00 0.04

※1 増減内訳: 売上債権 +825、流動資産その他等 △445

※2 増減内訳: 仕入債務 +1,094、災害損失引当金 △227、未払法人税等 △191

3. 連結キャッシュ・フロー

(参考)

	当第3四半期 連結累計期間 (H24. 4. 1- H24. 12. 31)		前年同四半期連結 累計期間 (H23. 4. 1- H23. 12. 31)
営業活動によるCF	769	税前利益 386、減価償却費 905、仕入債務の増加 1,041 たな卸資産の増加 △852、売上債権増加 △825、その他の流動資産の減少等 114	△1,566
投資活動によるCF	△273	設備投資 △405、固定資産売却収入等 132	3
フリー・キャッシュ・フロー	496		△1,563
財務活動によるCF	385	借入金の増加等 595、配当金の支払 △210	△45
現金及び現金同等物に 係る換算額	1		0
現金及び現金同等物の 増減	882		△1,608

4. 連結通期業績予想(平成24年10月25日発表)

	25年3月期	24年3月期	増減	
	予想	実績	金額	率
売上高	31,500	32,905	△1,405	-4.3%
営業利益	750	565	185	32.7%
経常利益	1,000	963	37	3.8%
特別損益	△300	301	△601	
税前損益	700	1,264	△564	-44.6%
当期純利益	420	372	48	12.9%
1株当り当期純利益	4円00銭	3円54銭		
1株当り配当金(期末のみ)	2円	2円		

※特別損益(予想)の主な内訳

	25年3月期 予想	24年3月期 実績
固定資産売却益	81	-
補助金収入	66	-
受取補償金	-	423
債務免除益	-	288
災害による損失	-	△519
固定資産処分損	-	△68
減損損失	△314	△35
その他	△133	212
計	△300	301

①セグメント別売上高(連結)

		25年3月期 予想	24年3月期 実績	増減	
報告 セグ メント	無機化学品	14,100	13,175	925	アモニア系製品の販売数量増等により増収
	機能化学品・化成品	11,400	11,558	△158	化成品関連は増収となるも、タケ(ゴム、プラスチック架橋助剤)及びその他機能化学品等の販売数量減により減収
	エンジニアリング	4,550	6,633	△2,083	震災復旧需要減等により減収
その他		1,300	1,376	△76	有機溶剤等の蒸留・精製業の処理量減少により減収
調整額		150	163	△13	上記セグメントに属さないコーポレート部門の売上高を調整額として表示
計		31,500	32,905	△1,405	

②セグメント別営業利益(連結)

		25年3月期 予想	24年3月期 実績	増減	
報告 セグ メント	無機化学品	600	△268	868	アモニア系製品の販売数量増、ゴム用カーボンブラックの製造終了等により増益
	機能化学品・化成品	170	156	14	化成品関連は増益となるも、タケ(ゴム、プラスチック架橋助剤)及びその他機能化学品等の減益により、対前年同期並み
	エンジニアリング	150	666	△516	震災復旧需要減等に伴い減益
その他		20	△77	97	産業廃棄物処理関連業からの事業撤退等に伴い増益
調整額		△190	88	△278	上記セグメントに属さないコーポレート部門の損益を調整額として表示
計		750	565	185	